

魚 類 の 生 活 色 に 就 いて (第 15)

黒 田 長 禮

On the life colours of some fishes—XV

Nagamichi KURODA

(203) サガミノコダラ *Ventrifossa garmani* (JORDAN & GILBERT). 1948 年 1 月 22 日伊豆大瀬崎西北 2 マイル沖 150~250 尋トロールにて成中魚 3 点入手。背方は帯灰色。体側より下方尾部の半迄及び鰓蓋は輝銀色。上下顎は蒼黒色、口角は擬白色。鰓条膜・胸及び腹は深蒼紺色。P. の液部と鰓耙は蒼黒色。ID. の第 2 棘の外面に鋸歯が明瞭。ID. は灰色、軸は濃灰色、A. は灰白色、各軟条基部に灰黒の小点列がある。C. の端部近くは濃灰色に黒味を帯びる。触鬚は蒼黒色、先端は淡色。虹彩は銀色で、上方は灰黒色。側線より上方に 5 縦列鱗がある。肛門は V. の中間に開く。体側から尾部に微小の褐黒点密在する。測定すれば、

♀ ad.	全 長	267 mm	尾 部	217 mm	熟 卵 入
Subad.		220		174	
Subad.		195		157	

次に 1947 年 12 月 27 日に伊豆戸田沖トロールで 3 点が獲られ、その内の 1 点を入手した。全長 216 mm。頭側は鏡の如き銀色光が強い。体は帯蒼色に銀白色光沢が多く、後方は幾分淡紅

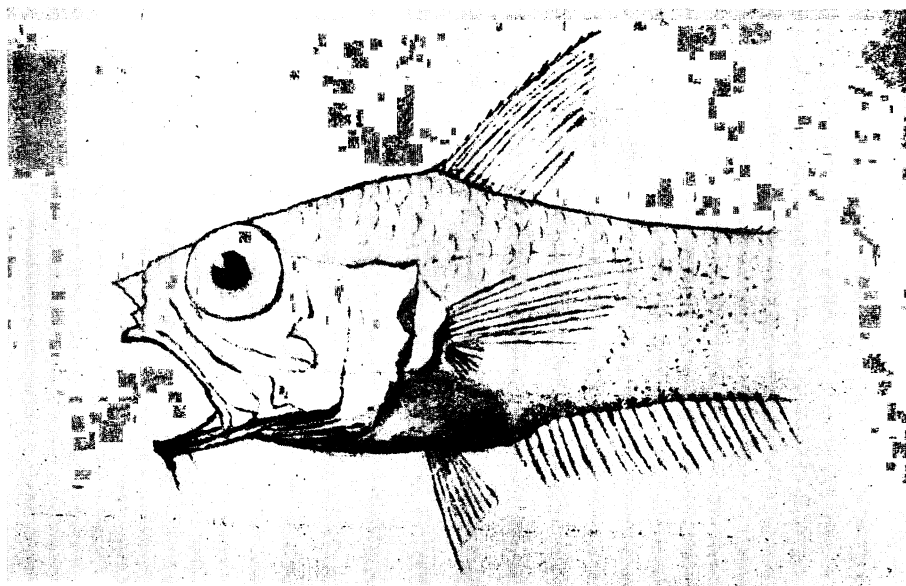


Fig. 1. サガミノコダラ 畸形 伊豆戸田沖トロール 全長 216 mm
 (下顎のヒゲは 1 本, 短かいのは写真の傷) (著者原図)

色を帯びる。体側で P. 先端より後方には多くの微小暗点を密布する。腹部側及び腹中線、鰓蓋後骨後縁、前骨下縁及び下顎端部等は濃蒼藍色。触鬚は黒味多く、短かく 4 mm 位である。ID. II, 10; P. 15; V. 8 で、第 1 D. 棘は 1 針、第 2 棘は最長 (24.5 mm) で、その前縁には鋸歯が明存する。V. の第 1 条は最長であるが僅かに 14.5 mm あるのみ。A. は肛門と離れて始まり、肛門は V. の間に開く。この標品では挿絵 (第 1 図) の如く吻端に明らかな 1 三角形突起がある。これは 1 種の畸形か。上顎上端に接しても小三角形の突起がある。吻は口より前方には殆んど突出していない。頭上に特に冠部を存しない。虹彩は紫銀色。

(204) イチモンジヒゲ *Coelorhynchus kamoharai* MATSUBARA. 伊豆大瀬沖トロール (西北 2 マイル沖 150~250 尋) で 1948 年 1 月 22 日漁獲の本種 4 点を入手した。新鮮色はヤリヒゲ (イナセヒゲ) (*C. multispinulosus* KATAYAMA) に似るが、背面は灰褐色である。体側の斑紋は不規則で境界不判明。喉部と鰓条膜の垂直部とは濃灰黒色。喉と肛門周囲とは暗褐黒色の小色素を密在する。V. は軟条が黒く、暗褐黒色の小点が粗在する〔ヤリヒゲでは殆んど無斑〕。頭側及び体の下方は銀白色。吻下面は無斑、前方にだけ有鱗部がある。ID. と IID. との距離は ID. 基底長より長い。体鱗はヤリヒゲより剝離性である。肛門は IID. 起部より少し前方に開く。〔ヤリヒゲでは IID. 第 3 軟条下に開く〕。ID. の第 2 棘は黒く、その他も軸に黒味がある。P. は灰黒色。虹彩は黄銀色で上方は暗褐色。

測 定

全 長		尾 長	
Ad.	327 mm	200 mm	
Ad.	286	178	
Subad.	202	113	
Juv.	120	50	—— 幼で尾端切れ再生の状

(205) ソロイヒゲ *Coelorhynchus parallelus* (GÜNTHER). 上記のイチモンジヒゲと同網で漁獲の幼 1 点を入手した。背方は帯灰色、D., P., V. は灰黒色。鰓蓋と腹側は銀白色。腹は帯蒼色。IID. 及び A. の縁も灰黒色。体鱗は成魚に比し細かいが数は同様、1 鱗に 5 平行隆起線があり、中央のが最長。虹彩は銀色。上方は褐黒色を少し帯びる。全長 246, 尾部 156 mm。

(206) テナガダラ *Abyssicola macrochir* (GÜNTHER). 1947 年 7 月 20 日志下海岸でこの深海魚の成魚 1 点を拾得した。不新鮮色で体鱗は全く脱落しあり。大型のもので全長 600+x mm (尾部端は僅かに切れ落つ)、吻端~肛門 208 mm、吻の上面は龍骨状をなし、吻の突出短かき具合は全く幼魚と異なる。小触鬚は失いしものか認められない。P. は他の近似属のものに比し長く、先端は IID. 起部に達する。吻及び頭側は淡汚黄色で、多少光がある。喉及び鰓蓋前骨縁並びに鰓条膜は蒼色を呈する。他は一樣なる帯紫銀色で、脱鱗せる鱗状の皮膚には菱形の明瞭なる擬黒色の細縁がある。体側中央には 1 蒼色縦線が通る。腹部は肛門を含み濃紺色である。眼は巨大で、虹彩は鈍黄色。IID. II, 11, P. 18; V. 7. 歯は両顎に 2 列の小歯を密在する。

(207) ハナオコゼとクロハナオコゼ 中間型 *Pterophryne histrio* (L.) ≧ *Pterophryne ranina* (TILESIUS). 1947 年 7 月 24 日志下沿岸地洩網に入ったホンダワラの切片と共に漁獲の 2 点を入手する。成魚は全長 125 mm、亜成魚は 99 mm で、共に多少斑紋の相異を示すが、共に両種の間中型のものである。地色は淡紅暗黄色で、腹方は美しいシトロン黄色となる。IID., P.,

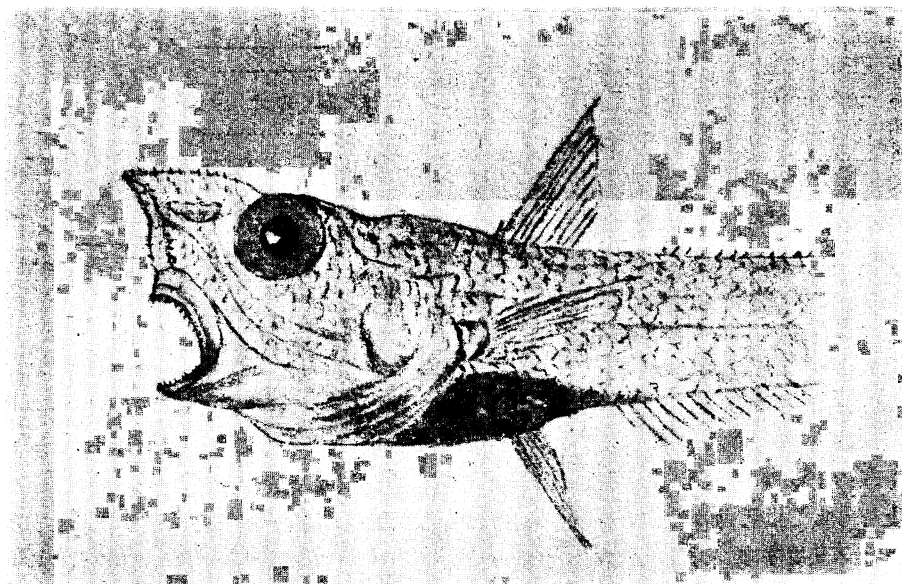


Fig. 2. テナガダラ 志下 拾得 全長 600 mm 余 (著者原図)

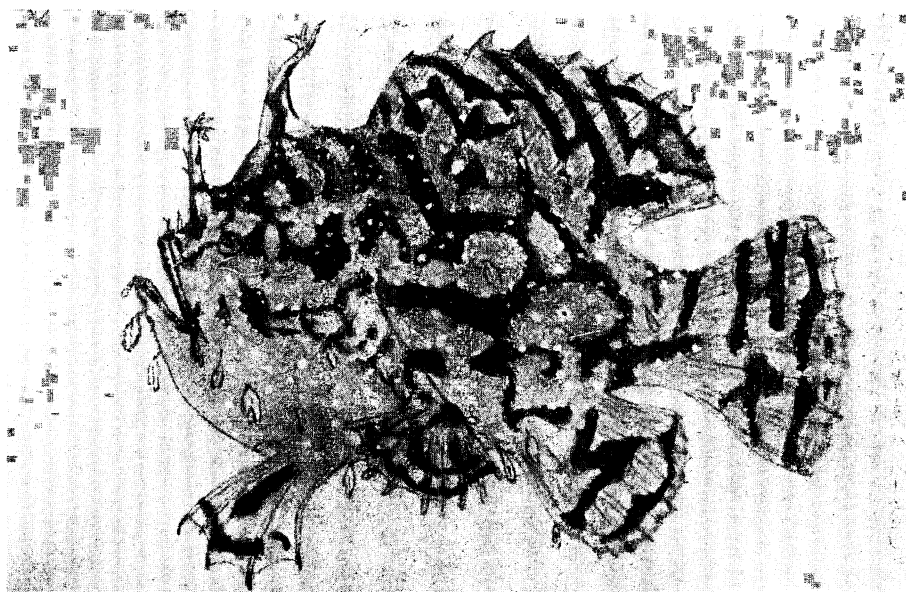


Fig. 3. ハナオコゼとクロハナオコゼ 中間型 志下地曳網 全長 125 mm (著者原図)

V., A., C. の地色は淡帯黄紅色で、この色は体の後方から尾柄部にも及んでいる。〔液漬後は体の地色はクローム黄色に近づく〕。体一面に白色の大小点を散在し、これは鱗にも多少認められる。次表に記してこの 2 点の標品は両種の間中型であることを証明しよう。今回の標品には次の特徴を見る (両種の特徴を有する)。

ハ ナ オ コ ゼ 特 徴	ク ロ ハ ナ オ コ ゼ 特 徴
1. 腹面に黒斑がない	1.
2.	2. 体に多くの大小白点あり
3. 体側の皮弁は多い	3.
4.	4. 体側に 1~2 個の明瞭な大形白縁擬円斑あり
5. 体と鰭の暗色斑は淡色部 (地色) より幅狭い	5.
6.	6. C. の斑紋が多少網目となる殊に小形標品の方では網目著しく又 A. にも同様に存する

以上の通りで、丁度中間型であるのが知られるが、一見した処ではハナオコゼの方に寧ろ近い。D. を除く体及び他の鰭の暗色斑は暗褐色で縁部が黒味が強く、白点の縁が黒い。IID. の暗色斑は殆んど黒色である。ID. III 離棘〔第 1 離棘は吻端近くにあり微小〕, IID. 12; P. 9; V. 5; A. 7; C. 8. 虹彩は黄金色で、上方暗褐色、内細輪は橙黄色。

以上をもって生活色の記述を一通り終ったが、以下には雑然と追加を試みることにする。

(208) **スミツキマツカサ** *Myripristis murdjan* var. *intermedius* (GÜNTHER). 1961 年 8 月 25 日三津水族館にてこの魚に相当する 3 尾を見た。名刺には「真の産地不明一和歌山県以西に棲息する」と出ていた。アカマツカサに等しいが、眼は黒く両側が白い。P. は鮮赤色で無斑、他の鰭は先方に黒又は薄黒斑があり、白縁が著しい。IID. と A. には明瞭で、V. とには不判明のものと殆んどなきものとあり、黒があるときは白縁が明瞭に存する。又毎日新聞 (1961 年 8 月 11 日、9 版 p. 10) に写真入にて報ぜられたものは伊豆式根島にて漁獲後、鳥羽水族館にお目見えしたと書いてある (3 尾)。これらは岡田・松原、検索、1938, p. 139 のスミツキマツカサ (新称) に一致する様に思う。しかるに松原 (1955) では p. 444 のフートノートに於いて次の如く記るされる。『本種は色彩の変異に富む。赤色型は *M. murdjan* に、黒色型は *M. adusius* に、この両者の中間型が *M. intermedius* に当る (AOYAGI, 1943, p. 45)』

(209) **イボダイ** *Psenopsis anomala* (T. & S.). 1959 年 8 月 30 日志下沿岸近きイワシ網中に混入し、各所の網にタチウオ等と共に入りその数 20 尾位に及んだ。その内 1 点を調査した。全長 197, 体長 148, 体高 67 mm。背方は淡灰褐色で、側方は大体中部以下は銀白色となり、光線により鰓蓋には銀光中に光桃色を帯び、腹方にも淡仕色を帯び我は光線により淡蒼色光を示す。鰓蓋上方肩部に灰黒色の 1 大斑を見る。D. は淡灰色、棘の先きの膜に小黒斑があり、P. は淡灰色、V. は白色、A. は D. と同じで少し白味が強く、膜に小黒先斑あることも同じである。C. は淡灰色、細かい灰色の小斑がある。虹彩は黄金褐色、内細輪は黄金色を呈する。しかし多くの例では虹彩は銀色のがある。

駿河湾では手繰網に入るのもあるが多い方ではない。稚魚はビゼンクラゲの傘下で採集したことがある。

(210) **オキナヒメジ** *Pseudupeneus spilurus* (BLEEKER). 1955 年 8 月 19 日三津水族館にて 1 尾を見る。一体に淡紅色を呈し体の前方には白味が強く、過眼線を加えて 2 縦帯は弧状を呈し暗緑色。触鬚は淡黄色。体の横帯は明らかでなく、只尾柄の黒斑のみが鮮在する。全長凡そ 150 mm (目測)。この魚は稀種で当湾で 2 回目位の例にすぎない。

(211) **クロテンジクダイ** (クロイシモチ) *Apogon niger* DÖDERLEIN. 1960 年志下にて次の 2 点 (成魚) を入手した。

	月 日	全 長	体 長	体 高	D.	A.	備 考
第1例	5. viii	92	76	30±	VII, I-9	II-9	
第2例	7. viii	102	83	36	VII, I-9	II-8	♀熟卵入

第2例は体色濃灰色或は暗褐色で不判明な3横帯(尾柄部のが大)が兎に角認められる程度にある。D., A. 及び V. の外縁は濃灰黒色を呈し, IID. に灰白色の中央擬円斑が1個ある。P. と C. は灰色で, P. の方が白味が多い。虹彩は黄金色。第1例では尾柄の黒大点(横帯の一部)を欠くものである。駿河湾では稀種に属し幼魚については「魚雑」生活色(第八), 図と共に掲げてある。最大は蒲原氏によると120mmになる由。

(212) ヒメダイ *Pristipomoides filamentosus* (C. & V.). 1955年7月27日杉浦明及び福本正之両君が伊豆七島銭洲島附近(北緯33°56', 東経138°49')にて漁獲魚中にこの種があり入手した。体は灰紫赤色, 腹方は淡色。虹彩は, 灰紫赤色で体色より光がある。全長418, 体長320, 体高103mm。D. X, 11; A. III, 8。D. と A. の最後軟条は延び, 前者は46.5mm, 後者は52mmを測る。A. は殆んど白色, V. は少しく赤味(桃色)を帯び, P. は赤味が美しく, D. と C. とは灰紫赤色が濃い。側線鱗27個。鮮肉は白い淡紅を帯び, 血合は暗紅色。一体に肉は軟く僅かに生臭味がある。刺身としてタイなどより大いに劣る。照焼も味が余りよくなく(大味), フライが一番適する。

(213) ニセタカサゴ *Caesio diagramma* BLEEKER. ヒメダイと同一場所にて漁獲の1点(標品番号1045)を入手した。全長318, 体長263, 体高76mm, D. IX, 15; A. II, 12。側線鱗84個〔松原, 1955, p. 671では70~80個とある〕。体長は体高の3.5倍。側線上方の背面は深蒼緑色。眼の上方から側線上を尾の上葉基部迄に巾6mm内外の黄金色の縦帯があり, それから凡そ16mm上方の背方に平行した同様の巾の黄金色縦帯がある。吻下方から体下面えと淡紅色を美しく帯び, 腹面では殆んど消える。D. は帯緑灰色, 膜(基部程緑色味強し)の先端は淡紅色, 軟条は紅色が強まる。P., V. 及び A. は皆美しい淡紅色で, P. 基部の裏面には漆黒色の円斑(大きさ13×12mm)がある。C. は両葉共暗紫紅色で先端に明瞭な黒褐色の大斑があり(25~26mmの長さ), 多少紅色を加味する。虹彩は鮮赤色。上下唇は濃灰色を呈する。タカサゴに似るが体鱗が細かい。タカサゴでは65個以下。

東印・比群島・高知県から知られる。伊豆の標品は稀な方かと思う。

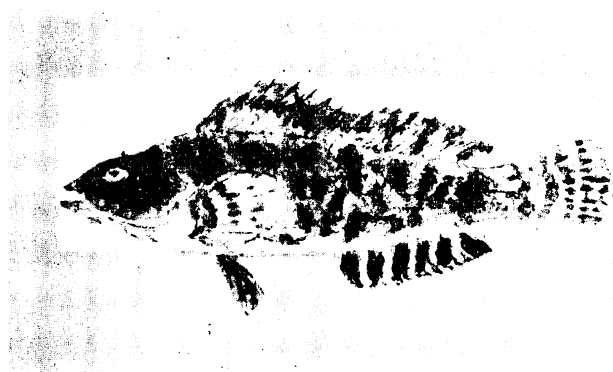


Fig. 4. クジメ 幼魚 志下棧橋 釣 全長140mm (著者原図)

(214) クジメ *Agrammus agrammus* (T. & S.). 1957年8月13日山内豊厚君が志下ホテル前棧橋でこの種の幼魚1尾を釣る。全長140, 体長117, 体高33mm., D. XVII, 22; A. 19。体はアンバー灰色で, 多くの雲型斑紋があり深アンバー色である。尾柄部に淡色の円斑が2個ある。D. にも淡紅アンバーの雲型斑があり, 処々に淡色点を残す。D.

棘部と軟条部との間に欠刻があり、その処は特に黒味が強い。C. も白色で約 4 横帯があり、これも深紅アンバー色で、尾柄に近きものには下部に多少赤味を帯びる。A. も同様でそれに 6 黒アンバー帯があり、最後を除く 5 帯は軟条に関係なく垂直にある。P. も同様だが 4 横帯の内、下方の部分と軟条とは赤味が加わる。V. は黒味強く先端に赤味がある。下鰓端は赤い。鰓蓋下部には数個の不判明の淡斑がある。頭上のプロフィールは波状で、頭頂は高まり、吻は尖る傾向が強く、下顎は上顎より少し突出する。目の上後方近くに 1 小総状物(長さ 3mm)があり黒色で、それに橙黄赤色を加える。

因に稚魚は蒼色である。その新鮮色の記載と挿絵とは「魚・雑」2 巻 4-5 号, p. 215, fig. 3 にある。

Résumé

The part fifteenth of this series contains descriptions of life colours of the species Nos. 203 to 207, with some interesting notes on the genera of *Ventrifossa*, *Coelorhynchus* and *Abyssicola* in the family Coryphaenoididae, and two examples of the intermediate forms between *Pterophyrne histrio* and *ranina* from Suruga Bay. The species Nos. 208 to 214 are represented by some records of recently examine species, such as *Myripristis murdjan* var. *intermedius* from Shikine-jima in the Seven Islands of Izu, *Pristipomoides filamentosus* (syn. *sieboldi*) and *Caesio diagramma* from Zensu Island (lat. 33°56'N., long. 138°49'E.), together with a few examples of species from Suruga Bay.